

特殊詐欺の認知状況(令和3年6月末)

～架空料金請求詐欺・還付金詐欺が多発～

1 県内の特殊詐欺の認知状況(令和3年6月末)

- 被害認知件数は**35件**(前年同期比+20件)
- 被害額は**約5,024万円**(前年同期比-約2,189万円)

2 令和3年6月の認知状況

- 被害認知件数は16件(前年同月比+13件)
- 被害額は約895万円(前年同月比+約855万円)
- 手口は
 - ・ 架空料金請求詐欺 ～8件(うち1件は未遂)
 - ・ 還付金詐欺 ～8件

3 県内の特殊詐欺の傾向(令和3年6月中)

6月中は、架空料金請求詐欺8件、還付金詐欺8件の被害を認知しました。

架空料金請求詐欺については、犯人から指示され、コンビニのマルチメディア端末を操作して電子マネーを購入させられた後、IDを犯人に教えてしまうことで、電子マネー利用権をだまし取られる手口が増えています。

電話で「ビットキャッシュ」や「グーグルプレイカード」等の電子マネーの話が出たら詐欺ですので、家族や警察に相談してください。

また、還付金詐欺については、第21号でもお知らせしたとおり、「事前にご自分の口座のATM振込限度額を引き下げること」が被害を未然に防ぐための有効な手段の一つです。手続は金融機関ごとに異なりますので、詳しくは口座をお持ちの金融機関へお尋ねください。

4 被害状況など

～被害者の年齢・性別構成～

年齢	令和3年6月末(人)		
	男性	女性	計
0～19	-	1	1
20～29	-	1	1
30～39	-	1	1
40～49	2	-	2
50～59	3	4	7
60～64	2	5	7
65～69	3	9	12
70～79	1	3	4
80～89	-	-	-
90～	-	-	-
合計	11	24	35
うち65歳以上の高齢者	4	12	16

～特殊詐欺全体の被害金交付形態～

交付形態	令和3年6月末 件数
振込型 (犯人が指定する口座に振り込ませる)	26
現金手交型 (犯人が直接現金を受け取る)	1
現金送付型 (郵便や宅配便などで現金を送らせる)	-
電子マネー型(コンビニで電子マネーを購入させる)	8
キャッシュカード手交型	-
収納代行利用型(コンビニ決済)	-
キャッシュカード窃取型	-
合計	35